〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

2月号
第 62 巻　第 1 号
2017 年

無 料
Free

もくじ

今月の１枚 …… １ページ
・逃げたライチョウ（メス）の捜索経過について
さんぱく研究最前線 ― 北アルプスの自然と人 トピックス ― …… ２～３ページ
・大町・白馬アルプス　― 美しさの秘密 ―
博物館のひろば …… ４ページ
・ミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの？」
・植物さく葉標本登録の進捗状況
・大町岳陽高校１年生職業体験学習
・大町北小学校　理科連携授業
・安曇野アートライン展

博物館施設案内
はこちら

捜索にご協力いただき、ありがとうございました。

逃げたライチョウ（メス）の捜索経過について

鳥羽　章人

平成28年12月10日にライチョウ２羽が逃げてしまい、皆様に多大なご迷惑とご心配をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

オス１羽は当日のうちに保護することができました。しかし、メスは懸命の捜索を続けておりますが、1月25日現在、保護に至っておりません。

捜索は市内東西約13km、南北約20kmにわたって、博物館職員を含む市職員と山岳博物館友の会や一般のボランティアの皆様にご協力をいただきながら実施いたしました。車での巡回や山林に分け入っての捜索を行っておりましたが、捜索は難航しており、現在は皆様の情報提供を頼りに捜索を継続しています。全身白い羽で、鶏より少し小さな鳥を見かけましたら、博物館（電話：0261-22-0211）までご連絡いただければ幸いです。

なお、保護したオスは餌をよく食べ、健康状態も良好です。

このような事が二度とないように、万全の対策を行うとともに、ライチョウの保全に寄与するため、飼育や研究に尽力いたします。また、春の繁殖に向けて、準備を進めてまいりたいと思います。

今後とも、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

（市立大町山岳博物館　館長）

さんぱく研究最前線

大町・白馬アルプス －美しさの秘密－

安曇野や神城盆地から眺める北アルプスはとても美しく、なかでも、大町と白馬から望む山々は格別です。人それぞれ、美しさの感じ方は違います。にもかかわらず、多くの人々が共通して美しいと感じる景観には、それなりの理由があるはずです。大町・白馬アルプスがなぜ美しいのか、その秘密を地形や気象などの自然条件の面から調べてみましょう。

■北アルプスの山なみ

山の尾根は「稜線」ともよばれます。ある地域の稜線のうち、もっとも高く、よく連続する尾根を「主稜線」と言います。北アルプスの主稜線（図１の白線）は、奥穂高岳・槍ヶ岳から"裏銀座"をへて後立山連峰へ連なり、長野と岐阜・富山の県境になっています。

いっぽう、主稜線の手前に連なる低い山なみは、「前山」とよばれます。北アルプスの前山は、蝶ヶ岳から燕岳をへて鍬ノ峰までの「前山①」（図１の黄緑線）と、その手前の有明山・小遠見山・稗田山を連ねる「前山②」（緑線）に区分されます。

図１　北アルプスの山なみ　（地形画像はGoogle Earth Pro）

(1) 大町・白馬の低い前山

『塩の道』に沿って松本と糸魚川をむすぶ国道147・148号（図１の茶色線）を北上すると、国道の高度は図２のように、しだいに高くなります。佐野坂峠（標高860m）を越えると、こんどは北へ低くなります。

北アルプスの主稜線は国道よりも３倍～６倍も高く、山頂高度は2,500～3,000mを超えます。前山①は常念山脈ともよばれ、主稜線に肩をならべるほどの高い山々です。前山①は常盤付近で急に低くなり、さらに、大町と白馬では前山②もほとんどなくなります。そのため大町と白馬では、主稜線の峰々を麓から山頂まで一望することができ、その高度差は2,000mに達しています。

図２　国道147・148号と北アルプス稜線の高度

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご覧いただけます）。２月は18日（土）と19日（日）です。

(2) 大町～白馬の近い主稜線

私たちは，山の高さを、見上げる角度（仰角）として感じます。そのため、高さが同じ山でも、遠くにあれば低く、近くにあると高く見えます。図３［下］のとおり、国道から主稜線までの距離は、豊科～松川では20kmを超えます。ところが、大町～白馬では10kmほどしかなく、仰角が大きくなるために主稜線が高く大きく見えます（図３［上］）。

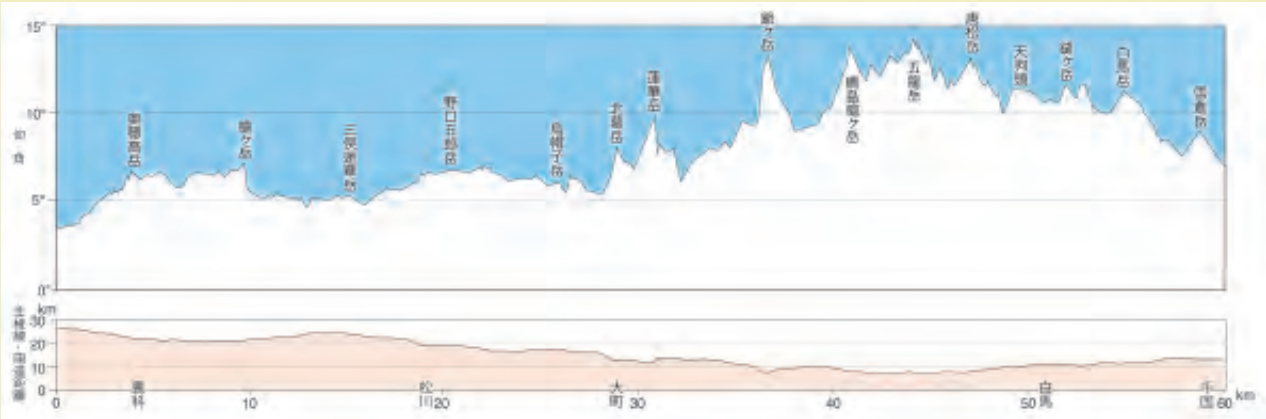

図３　国道147・148号から主稜線までの距離［下］と主稜線の仰角［上］

(3) 多雪

「最大積雪深」は、各年の最大積雪の平均値です。図４は信越地域の最大積雪深を示しています。北アルプスの主稜線（県境）では、北へ雪が深くなっています。そのため、大町や白馬では、晩秋～初夏の長期間にわたって冠雪した峰々を眺めることができます。とくに冬季には、雪におおわれた純白の山々が青空に映え，北アルプスがひときわ美しくなります。

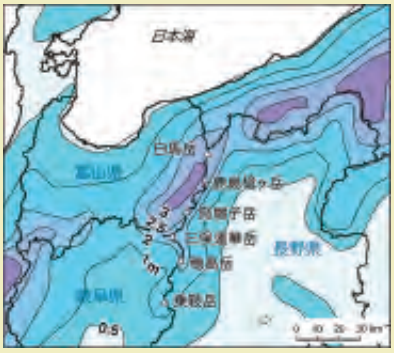

図４　信越地域の最大積雪深
(www.hrr.mlit.go.jp/library/hokuriku2006/s1-/4/s1003ekisetusin/03sekisetusin.html）の一部をトレース

■大町・白馬アルプス－美しさの秘密－

国道147・148号を北上しながら真西だけを見ると、北アルプスの姿は図５のようになります<注>。前山が高く見えるために、主稜線のほとんどが隠されてしまいます。

<注> 私たちの視野には、実際には真西だけではなく、左右の山々も幅広く入ってきます。

ところが、大町と白馬では、(1) 前山が低く、(2) 主稜線が近く、(3) 多雪であるために、大きく高くそびえる真っ白な主稜線の峰々を一望することができます（図６）。大町と白馬から見る北アルプスのきわだった美しさには、このような３つの秘密が隠されているのです。

（市立大町山岳博物館　専門員　矢野孝雄）

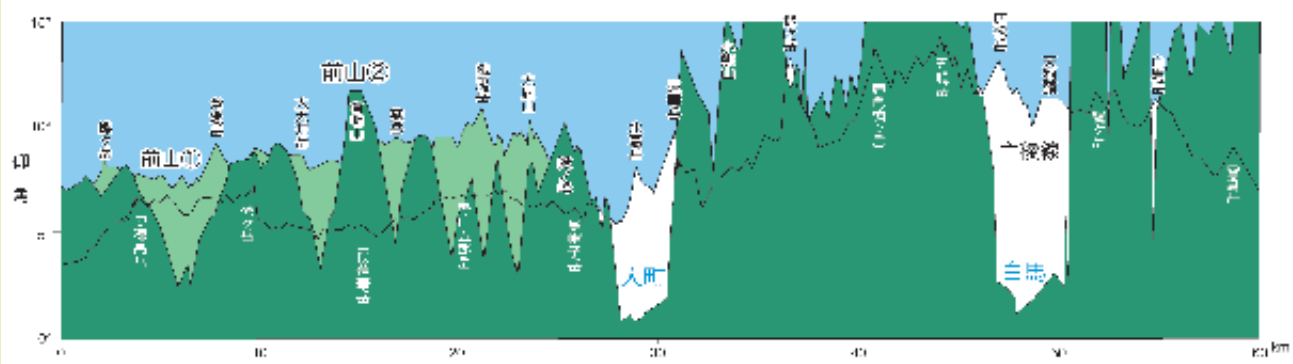

図５　国道147・148号から真西に見える北アルプス

図６　国道147・148号付近から望む北アルプス

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

ミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの？」

平成28年12月10日（土）

信州大学自然科学館主催のミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの？」において、当館の活動について発表させていただきました。

第３回を迎えるこの度は、県内の博物館などはどのような活動をしているのか、市民の皆さまと博物館との関わりなどについて知ることを目的に開催されたもので、「『ホタルも棲める良い自然』の市民活動が目指すもの（藤山静雄 信州大学名誉教授）」、「市民と共に歩む博物館の事例（若宮崇令 茅野市八ヶ岳総合博物館館長）」、「氷河時代のナウマンゾウと人類をもとめて － 野尻湖発掘と地域の博物館の役割 －（近藤洋一 野尻湖ナウマンゾウ博物館館長）」の講演が行われました。

当館学芸員からは、「親しまれる博物館をめざして－地域資源を生かしたはじめの一歩－」と題し、資源を人材や人間関係と捉え、それがいずれ博物館サポーターとなるよう、企画展開催準備に向けた一般市民や地域住民の参加を通した人材育成、博物館のサポーターでもある友の会との共催事業の開催、研究や資料収集保管などにかかる博物館事業への友の会会員の参加、また、小学校との連携授業や職業体験学習、インターンシップや学芸員実習（博物館実習）、教職員による異業種研修の受け入れを通して、博物館とかかわる機会をつくり、親しみのある博物館づくりを進めていることを紹介させていただきました。

講演終了後には、参加者との意見交換もあり、本シンポジウムで得た有益な情報や意見を今後の博物館づくりに役立てたいと思います。

植物さく葉標本登録の進捗状況

平成28年8月～平成29年1月

博物館が保管する未同定の植物標本は、一年半を要して、昨年６月に中山冽氏（長野県植物研究会　会長）による同定作業を終えました。８月からは、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」の皆さんのご協力のもと、さく葉標本の作製・登録が本格的に始まり、現在までに、1500点余りの資料登録をするに至りました。今後も作業を継続するとともに、研究者などに活用いただけるように、サイエンスミュージアムネット（S-Net）や当館Webサイト上での情報公開の準備を進め、資料収集保管事業の充実を図っていきたいと思います。

大町岳陽高校１年生　職業体験学習

平成28年12月13日（火）

長野県大町岳陽高等学校１年生２人が当館で１日間の職業体験学習を行いました。

大町市内にあった大町高校と大町北高校の２校が閉校し、大町市内で唯一となる高校として、今年度新たに開校した大町岳陽高校。同校では大町北高校からの学習カリキュラムを引き継ぎ、新校でも職業体験学習を実施しました。

当館では、動物飼育員の指導のもと、餌の調理・給餌、飼育舎の清掃、園内の整備という通常業務をひと通り体験していただきました。こうした経験が今後の進路選考の一助になれば幸いです。

大町北小学校　理科連携授業

平成28年12月14日（水）

市内小学校と連携して、博物館の展示や収蔵資料を活かした授業を毎年実施しています。今回は大町北小学校の２クラス68人が博物館で理科の学習を行いました。

理科では「人の体のつくりと運動」と「生き物のくらし」の単元の中で、ライチョウやカモシカの体の構造を紹介し、彼らの１年の生活についても剥製を見ながらクイズ等を交えて授業を行いました。

今回の授業を通して、環境に合わせた生活と体の構造が密接な関係にあることを知っていただければと思います。

安曇野アートライン展

11月19日（土）～ 12月18日（日）

「第12回　安曇野アートライン展」が国営アルプスあづみの公園穂高堀金地区「あづみの学校・多目的ホール」を会場に開催されました。

当館では、平成27年に寄贈をいただいた「パイネ　アルマガから」など初公開展示作品3点を含んだ南米アンデス地方を描かれた山川勇一郎の作品５点を出品しました。

会期が、ウインター・イルミネーションの開催期間にもあたり、多くの方にご覧いただくことができました。

また、加盟19館を結ぶスタンプラリーも同時開催されました。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
— 創立 1951 年 —

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

2月号
第 62 巻 第 1 号
2017 年

発行日　2017（平成 29）年 1 月 25 日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010